

## 分からないことを伝える大切さ

先月のある日曜日、9年前に卒塾した3人の塾生が訪ねてきてくれました。25歳の立派な社会人の青年たちです。その中の一人がくれたメッセージについて今回は書かせていただきます。

彼は今年社会人3年目。小学生の時に入塾して、中3の最後までしっかりやりきり卒塾しました。とても真面目で落ち着きのある子だったのですが、彼に関して一番印象に残っているのは、“とにかくよく質問する”ということでした。これは授業前後の私の手の空いている時にしてくるというわけではなく、授業中私が説明している最中にでも、「先生、なぜその式からその次の式に変わるのですか。」とか、「すみません、今言われた意味がよくわかりません。」など、とにかく少しでも説明が納得できなかつたらその場で聞いてくるというものでした。みんながわかっているだろうことを自分だけ理解出来ていないということに対して恥ずかしがっている風でもなく、また、授業を止めてしまったことに対して申し訳なく思っている風でもなく、当然のごとく“分からないから聞いている”といった感じでした。

実はこれは本当に大切なことなのです。私はみんなに理解してもらおうと思って説明していますが、それでもやっぱり全員には理解されていないこともあるのです。少数ではありますが、よくわからないけれど黙って聞いている子たちもいます。なぜそれが発覚するかと言いますと、当然ですが自分一人で解かなくてはならなくなるときに解けない、あるいは類題で指名して答えさせようとしても言われたやり方で答えられない、というようなことが出てくるからです。これではその子にとってその説明の時間は全て無駄だったということになります。説明のやり直しです。今でも子どもたちには「分からなかつたら説明の途中でも質問するように。」と伝えていますが、かつてのこの彼の態度を理想としてのことだったのです。

先月来てくれた時、彼は言いました。「初めの頃は自分が分かっていないことがばれるのがとても恥ずかしくて質問ができませんでした。でも、ある時分からないままいて先生にもものすごく叱られて、その後質問すると、優しく教えてもらえました。そこから“分からないことはきちんと質問しよう”と思って自分は変わりました。社会人になった今でもその姿勢でやっています。後輩にもそうするよう伝えていきます。」と。このメッセージは今の塾生たちも是非受けとってほしいと思います。社会に出てからも本当に大切なことの一つなのです。

分からないことは決して恥ずかしいことではありません。そのままにしておく方が後で困ることになります。分からないことはきちんと相手に伝えて質問する勇気を持ちましょうね。